

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(団体用)

I 基本事項

整理番号 643

事業名	みかんの木オーナー協会補助金		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	農業振興部	農林振興課		款	農林水産業費・6款
電話	0799 - 43 - 5025			項	農業費・1項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	目	農業振興費・3目	
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務		南あわじ市補助金交付規則		
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱		職 <u>食</u> づくり <u>夢あふれ</u> 働く場を生み出すまちづくり		
	まちづくりの目標		ふやさんか <u>食</u> づくりの担い手【農漁業】		
	施策目標		食づくりの源である豊穰の大地と海を守り、農業や漁業に携わる市民(若者、女性、元気な高齢者層など)を育てる		

II Plan&Do (計画・事業内容、団体内容、投入資源)

事務概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人を、構成員内訳)			
		南あわじ市みかんの木オーナー協会(市内のみかん栽培農家)			構成人数(人)
		20			
	実施内容	活動目的(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入)			
		果樹の生産振興と地域住民が求める観光農園の発展のためみかんの収穫体験を実施し、自然とのふれあいの中で健康的なレクリエーションとなる場を提供する。			
		(主な事業、活動内容等)			
	団体の概要	(どのような団体か、活動目的、活動内容など)			
緑支部役員・園主・南淡路農業改良普及センター普及員・市・事務局(NPO法人ふるさと応援隊)で構成					
事務局の所在 (直接事務執行部署)		<input checked="" type="checkbox"/> 補助団体	<input type="checkbox"/> 市役所	<input type="checkbox"/> 市単位 () <input type="checkbox"/> 旧町単位 () <input type="checkbox"/> 旧村単位 ()	
補助金算出根拠	金額 150千円				
補助交付期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度 <input type="checkbox"/> 設定なし				
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯)				
	<input checked="" type="checkbox"/> 旧緑町 <input type="checkbox"/> 旧西淡町 <input type="checkbox"/> 旧三原町 <input type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から				

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
資源配分 インプット	直接事務費 (千円)	150	150	150	120
	みかんの木オーナー協会補助金	150	150	150	120
	財源 (千円)				
	国				
	県				
	起債				
	その他				
	一般財源[A]	150	150	150	120
	人件費(正規職員)[B] (千円)	0	0	0	0
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1
	事業量1(事業に要した日数)				
	事業量2(事業に要した人数)				
	年間経費([A]+[B])	150	150	150	120
	「構成人数」一人当り経費 (千円)	7.5	7.5	7.5	6.0
受益者人数(20)一人当り経費(千円)	7.5	7.5	7.5	6.0	
経費に関する 補足説明					

Ⅲ Check (事業の自己評価・一次評価)

費用対効果	(費用対効果の分析、問題点・課題などを記入。) 島内外の消費者の需要が多いため、みかんの木が不足するほどであり、安定した価格で、販売でき、消費者との交流ができる中、新たな果樹品目などの販売が生まれる。	自己評価 (5点評価)
		3
必要性	公共性の高低 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低 (公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 生産者の高齢化が進んでおり、収穫が困難になってきているため、果樹栽培を続けていくためには、必要である。	自己評価 (5点評価)
		4
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 後継者不足が深刻であるので、現状を維持していくべきである。	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">評価グラフ</p> <p style="text-align: center;">費用対効果 必要性</p> </div>

IV Action&Plan (改善・改革の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input checked="" type="checkbox"/> 予算削減	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input checked="" type="checkbox"/> 予算削減
	<p>高齢者や後継者不足により、栽培面積が著しく減少している中で、果樹農業を維持、発展していくために継続していくべきである。</p>	同左
(現状維持以外の改善方法)	<p>今後とも経費節減の上、継続して会の運営に努める。</p>	同左
改善によって期待される効果	<p>活動は継続しつつ予算節減となる。</p>	同左
(現状維持の場合も記入)	<p>仮に補助金、交付金を廃止した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面) オーナー制度を維持していくことが、出来なくなり、放棄農園が多くなる。</p>	